

2025 年度

上 宮 高 等 学 校

入 学 考 査 問 題

国 語

- (注意) ① 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。  
② 字数の指定がある設問は、句読点やカッコもすべて一字に数えること。  
③ 問題の作成の都合上、本文の表現などを一部変更しています。

受 験 番 号				名 前	

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

幼い頃は、親は自分を包む大きな存在であり、言ってみれば絶対的存在だった。ところが、中学生にもなれば、親の偶像がクズれる。親も不動の心をもつ頼れる存在ではなく、常に揺れ動いていることに気づく。自分のことは何でもお見通しというわけではないこともわかる。親を偶像視することがなくなり、ただの人間とみなすようになる頃、痛切に感じるのが親と自分の価値観や感受性の違いだ。

① 親の言うことがどうにも納得できなくて、  
「そんなのおかしいじゃないか！」

とイライラする。

自分の言い分がどうしても親に通じず、  
⑤

「なんでわかってくれないんだ！」

とイライラする。

そんなことがしばしばあるため、親のことを鬱陶しく感じるようになる。⑥

親の言うことが当たっていてもイライラする。自分のためを思っていてくれるのだと頭ではわかっているが、

「いちいちうるさいな」

「そんなこと、言われなくてもわかってるよ」

などと言いたくなる。

このようにちょっとした親の言葉や態度にいちいちイライラするのは、「自分」ができてきている証拠と言える。

いちいち反発する自分を発見し、自分はどこかおかしくなってしまったのではないかとナヤむ人もいるが、心配することはない。⑦  
⑧ 自分が順調に育っているからこそ、親の言葉や態度にイライラするようになるのである。⑨

小学生の頃は、

「いつまでゲームやってるの！宿題やったの？」

などと親から言われて、

「今、やろうと思ってたのに、いちいちうるさいな」

などと反発することはあっても、何かと親に頼り、手伝ってもらったりアドバイスをしてもらったりするのをありがたく思うことが多かったはずだ。ところが、中学生くらいになると、親に何か言われるたびに鬱陶しく感じ、反発したくなる。

A

反抗期になったのだ。親からすれば、子どものためを思っているのに、なんでわからないんだと言いたくもなるだろうが、心の発達という観点からすれば、これは

B

歓迎すべきことなのである。

「親と価値観が合わないから、言われることすべてが納得いかない」

という人もいるが、それは親の価値観とは異なる自分なりの価値観ができつつあることを

C

示している。

「親の言うとおりにすればうまくいくかもしれないけど、それはどうしても抵抗があるんです。自分の思うようにやってみたいんです」

という人もいるが、それは心の中に主体性が育ってきていることのあらわれと言える。

評論家の亀井勝一郎は、少年時代を振り返って、つぎのように記している。

「人に隠れて、ひとり考え事をする。——考えるということは、すでに何ものかから己を隠すことであるらしい。」（亀井勝一郎「我が精神の遍歴」『亀井勝

一郎全集』講談社 所収）

D

行動は外から観察可能だが、心の中で何を考えているかは外からはわからない。反抗的な態度や言葉は親にあからさまに伝わってしまうが、心の中で反抗していても親に即座に見透かされることはない。

⑦ ニンチ能力の発達により、抽象的思考が活発に動き出す青年期には、親にも窺い知れない自分独自の世界ができてくるのだ。だから、青年期に突入した

子をもつ親は、「ウチの子は、この頃、何を考えてるんだか、さっぱりわからない」などと言うわけだ。自分にはコントロールできない存在になりつつあるわが子との間に、見えない壁があるのを感じるのだろう。

そんな親子の間で起こっていることについて、亀井はつぎのようにゲンキユウしている。

②「専制的な権力は、考える人を極度に警戒するが、すべて政治的なものは、考え深くあることに対してフダンの危惧を抱いているようにみうけられる。むしろ少年の僕がこんな感想をもったのではない。少年にとって最も身近な専制的権力とは、家族である。考えるということは、まず家族に対する反逆であり、肉親の不満をかう。③これを薄々感じはじめたのである。人間に孤独感を抱かせる最初のもものは家族であり、家族への呪い<sup>おこ</sup>が起る。この経験のない精神はおそくない。」(前掲書)

今どきの親は、「ほめて育てる」とか「叱らない子育て」といった標語に惑<sup>⑦</sup>わされ、子どもに対してやたらと迎合することがあり、そのような親に接する者は、とくに反抗すべき対象として親を意識することはないかもしれない。

だが、自分の考えをリフジン<sup>⑧</sup>に押しつけてくる親ではなくても、こちらが何を考えているのかわからず腫れ物<sup>(b)</sup>に触るようにしている親であっても、そんな親の言葉や態度を鬱陶しく感じる。それが一般的な青年期の感受性なのではないだろうか。

生きがいや人生の意味についての探求で知られる精神科医神谷美恵子<sup>かみや みえこ</sup>は、「反抗期について、つぎのように述べている。

「親や教師にとっては頭の痛いことだが、反抗期を経ずに成長することは、必ずしもよろこぶべきことではない。④あまりにも素直に育ってしまった青年は、それだけひ弱い大人、あるいは個性のない大人になる可能性がある。」(神谷美恵子『人間をみつめて』河出書房新社)

「(前略) 私が言いたいのは、反抗期がつよく現れるような子どもや青年は、あとでしっかり者になる確率が大きい、ということである。」(同)

結局、反抗というのは、親の言いなりになることに抵抗を示し、自分の思うようにしたいと自己主張すること、つまり自分の意思を押し通そうとすることである。

したがって、反抗しない者には押し通すような意思がないということになる。自分なりの考えをしつかりもっていないため、親の言いなりで平気なのである。その方が間違いがなく楽だ<sup>⑤</sup>という者もいるが、それは自分というものがまだ育っていない証拠とも言える。

反抗というと、親に対して怒鳴るように言い返したりするなど、激しいやりとりを連想するかもしれない。たしかに親と怒鳴り合ったり、取っ組み合いになったりするような激しい反抗をしたという者もいる。だが、多くの場合、そこまで激しいものではなく、もつと間接的な反抗の形を取るものである。

僕の場合も、「うるさいなあ」と言うようなことはあっても、あからさまに親に激しく反抗した覚えはない。ただ、小学校高学年の頃から、親に対して秘密をもつようになった。<sup>⑥</sup>

たとえば、友だちとどこで何をして遊んだのかを言わなくなった。親が子どもにはわからない Y の世界を生きるようになった。もちろん学校の世界のこともほとんど話さなくなった。

また、数人の友だちと秘密基地をもつようになった。大きな鉄筋コンクリートのアパートの土台部分の空間の片隅だ。一階の住宅のベランダの下の四角い小さな穴の鉄柵を外して潜り込むと、薄暗くて広い空間が広がっている。その片隅にジンチをつくり、宝物を持ち寄った。宝物といっても、大人からすればただのがらくただ。だが、そこはワクワクする場所だった。三人の仲間しか知らない僕たちの秘密基地だった。

家族心理学では、親と子の間に世代間境界を設定することが大切だと言われる。親に対して秘密をもつことは、世代間境界の設定とも言える。

たとえば、母子密着の場合は、母親も子どもお互いに対して秘密をもたず、何でもあけすけに話すため、世代間境界がないのである。

秘密をもつことによって、親の侵入を許さない自分の領域を確保することができ、親から心理的に分離独立した存在になっていく。それは心理的自立の典型的な道筋である。

健全な親子関係においては、世代間境界がはっきりとしているものであり、子どもが親に対して秘密をもつようになるのは当然のことであり、心が順調に発達していることの証拠とも言える。

ゆえに、親に秘密をもつようになったからといって、自分は悪い子だと自分を責める必要はない。頼もしい大人への道を歩み始めたのだ。

(榎本博明『「さみしき」の力』による)

⑥ 窺い知れない …… 見当をつけることができない。

問一 ——— 線部㍿㍿の、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで、それぞれ答えなさい。

問二 ——— 線部㍿㍿の語の品詞名を、次のア㍿コの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	名詞	イ	動詞	ウ	形容詞	エ	形容動詞	オ	副詞
カ	連体詞	キ	接続詞	ク	感動詞	ケ	助動詞	コ	助詞

問三 ——— 

A
---

D
---

 に入る語句として最も適当なものを、次のア㍿オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	暗に	イ	むしろ	ウ	いわゆる	エ	ところが	オ	たしかに
---	----	---	-----	---	------	---	------	---	------

問四 ——— 線部(a)・(b)の文中での意味として最も適当なものを、次のア㍿オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

(a) 見透かされる

ア	大したことないと軽視されてしまう
イ	隠していたことも看破されてしまう
ウ	底の浅い意見だと反論されてしまう
エ	人の内面が勝手に解釈されてしまう
オ	将来の展望などが予想されてしまう

(b) 腫れ物に触るよう

ア	あまり関わらないようにしながら、様子を見守るさま
イ	危険な目にあわないように、遠くから働きかけるさま
ウ	機嫌を損なわないように気遣い、恐る恐る接するさま
エ	不用意に関わることをせず、よく考えて対処するさま
オ	たとえ拒絶されたとしても、真心を込めて向き合うさま

問五 ——— 線部①「親の言うことがどうにも納得できなくて」と筆者が考えたのはなぜですか。「㍿から。」に続くように文中から二十五字で抜き出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問六 ——— 線部②「専制」とありますが、子どもに対する親の態度として、「専制」とは対照的な語句を、文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

問七 ——— 線部③「これ」とは何を指していますか。その内容の要点が示されている一文を、文中から抜き出し、始めの**五字**を答えなさい。

問八 ——— 線部④「あまりにも素直に育ってしまった青年は、それだけひ弱い大人、あるいは個性のない大人になる」とありますが、それはなぜですか。文中の語句を使って、**三十字**以内で答えなさい。

問九 ——— 線部⑤「と」と同じ使い方をしている「と」を、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 友だちと図書館に行く。      イ 雲がゆつくりと流れる。      ウ 雨がやむと星が見えた。

エ 彼も参加すると言った。      オ あなたとは立場が違う。

問十 ——— 線部⑥「親に対して秘密をもつようになつた」とありますが、「親に対して秘密をもつ」ことについて、筆者が考える意義はどのようなことですか。文中の語句を使って、**七十字**以内で答えなさい。

問十一 ——— 

X
---

 ・ 

Y
---

 に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア X 仕事 ・ Y 遊び      イ X 労働 ・ Y 学業      ウ X 未来 ・ Y 現在

エ X 努力 ・ Y 怠惰      オ X 現実 ・ Y 理想

問十二 本文の内容に一致するものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 親とは違う子どもなりの価値観が備わるようになって、子どもである以上、親の責任がなくなるわけではない。

イ 子どもがどういう人生を送るかは、結局は子ども自身が決めることであって、親が口出しすべきことではない。

ウ 親に理解されない孤独を子どもは感じるがあるが、その孤独感こそが大人に成長する不可欠の要素である。

エ 「ほめて育てる」教育方法は、自分の考えを押し付ける教育方法と同じく、子どもの成長を妨げるものである。

オ たとえ親に対して反抗的な態度をとったとしても、それは子どもが健やかに成長している証<sup>あかし</sup>と考えるべきである。

二 次の1～5の（ ）にそれぞれ漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。また、1～5の四字熟語の意味として最も適当なものを、後のア～オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

1 聖人（ ）子

2 （ ）和雷同

3 一（ ）一会

4 （ ）心暗鬼

5 天変地（ ）

ア 生涯に一度かぎりであると心得ること。

イ 地震や雷などの自然界で起こる変わった出来事。

ウ すぐれた教養と高い徳を備えた理想的な人物。

エ 自分にしっかりとした考えがなく、他人の言動にすぐ同調すること。

オ 物事が信じられず、あらぬ妄想にとらわれてしまうこと。



「このページは白紙です」

### 三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

③ 武州<sup>ぶしゅう</sup>に、境間<sup>さかひまぢか</sup>近き程に、互ひに睦<sup>むつ</sup>ぶ俗有りけり。一人は家貧しく、一人は豊かなりけり。さるままには、常に借物<sup>かりもの</sup>などしけり。  
家が近いので

さて、共に死にて、かの一人の子の夢に見えけるは、亡父来りてよに物歎<sup>なげ</sup>かしき氣色<sup>けしき</sup>にて云ひけるは、「某<sup>それが</sup>殿<sup>どの</sup>の物をいくくら借りて、返さざりし程に、あの世にて責めらるるが堪<sup>た</sup>へがたきに、かの子息<sup>もと</sup>の許へ返すべし」と告ぐ。

夢さめて、親の時よりの後見<sup>ごうしん</sup>に、事の子細<sup>こさい</sup>を尋ねければ、<sup>①</sup>「さる事侍<sup>はべ</sup>りき。御夢<sup>ごむ</sup>に違<sup>たが</sup>はず」と云ふ。さて、「不思議<sup>ふしぎ</sup>の事なり」とて、急ぎ員数<sup>いんじゆ</sup>の如く

沙汰<sup>さた</sup>して、かの子息<sup>もと</sup>の許へ、「かかる子細<sup>こさい</sup>侍<sup>はべ</sup>れば、かの借物<sup>かりもの</sup>、沙汰<sup>①</sup>しまゐらす」よし、<sup>②</sup>委<sup>くは</sup>く申し送りけり。  
用意して

かの子息、返事に申しけるは、「この物、争<sup>いかで</sup>か我が身に給<sup>たま</sup>ふべき。あの世にて、某<sup>わが</sup>が父、責め参らせん上に、また重ねて給<sup>たま</sup>ふべからず」とて返しけり。押

し返し送りて云はく、「この世にて沙汰<sup>さた</sup>し参らせざらんにつきてこそ、あの世にて責められ参らせ候<sup>さうら</sup>へ。親の歎<sup>なげ</sup>きを休め、夢の告<sup>つ</sup>げを違<sup>さ</sup>へじと思ひ侍<sup>はべ</sup>り。

③ まげて取らせ給<sup>たま</sup>へ」とて遣<sup>や</sup>りけり。また云ひけるは、「親の事を重く思ひ、<sup>①</sup>いたはしく存<sup>ぞん</sup>ずる事は、誰<sup>たれ</sup>も劣り参らすべからず。されば、あの世にて、親にこそ取らせたく思ひ候<sup>さうら</sup>へ。ここに我が身に給<sup>たま</sup>はるべき様候はず」とて返しけり。

度々問答往復して、事ゆかざりければ、鎌倉に上りて対決しけり。<sup>③</sup>奉行人より始めて、上にも下にも、聞きおよぶ類、<sup>④</sup>「かかる珍しく哀れなる沙汰、未

だ聞かず。至孝の志、世間の理も、深くわきまへ存ずるにこそ」と、誉めののしりけり。心有る人は、涙を流してぞ感じける。

ほめたたえた

さて、件の物を以て、両人の亡父の菩提を弔ふべしと下知せられければ、国に下りて、二人、亡父の為に仏事を営みけり。まことに有り難かりける賢人

なり。

命じられたので

『沙石集』による)

③ 武州 …… 武蔵の国。現在の東京都・埼玉県・神奈川県東部。

後見 …… 財産の管理を補佐する人。

対決 …… 当時の訴訟手続きの一つで、それぞれが自分のために弁明し合うこと。

奉行人 …… 裁判官の役割を担当する者。

問一 ——— 線部㊦・㊩の語句を現代仮名遣いに直して、ひらがなで答えなさい。

問二 ——— 線部(a)ㄥ(c)の語句の文中での意味として最も適当なものを、次のアㄥオの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

(a) 遣りけり  
ア 思いやつた  
イ さしあげた  
ウ 頼み込んだ  
エ つかわした  
オ 無理強いした

(b) いたはしく存ずる  
ア 苦痛に思う  
イ 大切に思う  
ウ 誇りに思う  
エ 不憫ふびんに思う  
オ 迷惑に思う

(c) 有り難かりける  
ア ありがたくない  
イ いそうでない  
ウ めったにいない  
エ 感謝を忘れない  
オ 現世にはいない

問三 ——— 線部①「さる事」とはどのようなことを指しますか。それを説明した次の文の  
I  
・  
II  
に当てはまる語句を、文中からそれぞれ二字で抜き出して答えなさい。

豊かな家の人から

I

をしたまま

II

ことができていないこと。

問四 ——— 線部②「委く申し送りけり」とありますが、それに対して「かの子息」が受け取らなかった理由がわかる部分を、文中から三十字で抜き出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問五 ——— 線部③「まげて取らせ給へ」とありますが、この言葉からどのような心情が読み取れますか。その心情を説明した次の文の

I

に当てはまる語句を、それぞれ十五字以内の現代語で答えなさい。

I

I

を嘆いている父のお告げに従って、父に言われたものを、相手の息子に

II

という切実な思い。

問六 ——— 線部④「かかる珍しく哀れなる沙汰」とありますが、これはどのようなことを指していますか。その内容として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 貧しい家の息子が父親の亡くなったあとと裕福になり、借りた以上にお礼をしたいと思っていること。

イ 豊かな家の息子が、貧しい家の息子に父親の代の貸し借りは帳消しにしようと申し出ていること。

ウ 貧しい家の息子も豊かな家の息子も、亡父の生前の貸し借りにはこだわりをもっていないこと。

エ 豊かな家の亡父のあの世での態度を知った息子が、貧しい家の息子にすまなく思っていること。

オ 豊かな家の息子も貧しい家の息子も、それぞれに亡父を重んじて清算したいと考えていること。

問七 この文章には一か所「」が抜けているところがあります。その部分を文中から二十字で抜き出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問八 この文章の主題を表している語句を、文中から四字で抜き出して答えなさい。

問九 この作品は鎌倉時代に成立しましたが、鎌倉時代に成立した作品を、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 竹取物語    イ 源氏物語    ウ 平家物語    エ 枕草子    オ 土佐日記